

「雑感 …草取りをしながら…」



理事 大木 君江

8月に子ども・子育て支援法に基づく基本方針（案）が各自治体に示され、今後は各市町村の子ども・子育て会議が開催され子ども・子育て支援事業計画が策定されていく。これを受けて各都道府県では子ども・子育て支援事業を支援する計画が策定される。来年の今頃は計画が概ね出来上がっているのだろうか。

ところで、列島各地で予想も付かない豪雨に見舞われたり、猛暑で体力気力も減退する今夏だったが、毎年8月は、園の事務的な業務が少なくなり、保育室に出向いたり、教材作りをしたり、畑を覗いたり、草取りをしたり、気になる子に寄り添ってみたり、と気ままに行動したくなる時でもある。

草取りをしながらつい保育室の様子を耳で観察してしまう。聞き耳を立てているわけではないのだが、手を動かしているだけなので自然と耳に入ってくるのである。保育士の話し方に場面を想像したり、話し方に首をかしげたり、言葉遣いが気になったりする。それがなぜ改善されないかと、自分の問題として思考する時間へと移る。また、畑に出向けばサツマイモの蔓返しの作業がある。平成14年に2箇所の畑を借用し、延べ420平方メートルの畑に様々な野菜の栽培を本格的に開始した。当時地主さんからサツマイモの蔓返しの作業を指導していただき、この時期に2回実施する。炎天下での作業は相当しんどいものであり、額から流れる汗は尋常ではないが、この汗を気持ちよく感じるのも事実である。収穫し食する時にはこの労働の苦勞を知るからこそ、サツマイモの味を充分堪能し、農作業を担当した職員への感謝の気持ちが生まれる。

野菜や植物の栽培には草取りは欠かせない作業である。うっかりしていると「草が伸びていますよ。」と電話をもらう時もある。畑の草の伸び方はわずかであるが農業をされる方にとって、畑はきれいになっているべきものなのであろう。

私にとって草むしりではなく、草取りは嫌いな事ではない。この年齢になり土と親しむ事は結構楽しいものである。あるとき農業をされているお年寄りに「草取りが大変ですね。」と社交辞令的に声をかけた時「なーに大変なことではない。この草の根を取ればこの草は二度と芽を出す事はない。だから草をとる、それだけの事だ。」と返答された。言い得て妙でありごく当たり前のことであるが、それ以来草取りをする時は、根をしっかりと取り除く、二度と芽が出ないようにと大げさな言い方をすれば、草取りの目標である。目標に向かい、作業する時間と作業する範囲を決めて取り組めば「なーに、大変なことではない。」のである。むしろ成就感を味わい、自己満足できるのである。

私が保育の仕事に関わって約40年、園長になり20年になるが、当時の園長がこれからは、保育に欠ける子だけでなく保育を必要とする子を受け入れる時代が来る。今の子どもたちは心が育っていない。子どもたちの心を育てるように、保育の中味を充実するようにと託された。子どもたちの心を育てるといふ永遠の課題に、自問自答しながら今は「目の前にいる一人ひとりの子どもに心を込めて援助すればいい」と結論づけている。子どもの世話も植物の世話も同様と思う。

手をかけ目をかけ愛情を持って育て、不必要なものを取り除き野菜が育つ環境にしてあげなければ、おいしい野菜は育たないし、苗植えや種まきの時期を逸すればやはり良い野菜は収穫できないのである。

子どもが成長する過程では生活や遊びに必要なことを簡単に身につけられる時機がある。子どもの育ちをしっかりと見守り援助できればその時機がわかるのである。

その時々を大切に、その時機を逃さないように援助できる大人の存在と、余裕ある社会環境があれば、子育て支援・親育ち支援の意義が生かされると思うのである。